

魅力ある学校づくり協議会(板橋第九小・ 中根橋小・板橋第一小) ニュース

発行日：平成 27 年 12 月 8 日
開催日：平成 27 年 11 月 26 日
発行：板橋区教育委員会事務局
新しい学校づくり課
学校配置調整担当課長
電話 3579-2090

第10号

第 10 回協議会内容

第 10 回協議会は、前回確認した「基本的な考え方（事務局案）」（ニュース第 9 号参照）に基づき下記のとおり、資料の説明及び意見交換を行いました。第 11 回協議会では、「統合校」「統合年度」といった具体的な内容について意見交換を重ねていく予定です。

1. 統合年度・統合校の検討にあたって
2. 学校沿革と統合シミュレーション
3. 板橋第九小通学区内児童の就学先
4. 過去の学校適正配置の状況
5. 交流事業について
6. 意見交換

1.事務局からの報告事項について

◎11 月 12 日に開催された板橋区議会文教児童委員会に協議会の進捗状況を報告しました。今後も随時委員会へ報告してまいります。また、「板橋区議会に板橋第九小を閉校しないで、学区域制の徹底で対応してほしい」という主旨の陳情が 9 月に出され、継続審議となっておりますが、当該陳情が取り下げられたので審議は行われませんでした。

◎未就学児の保護者の方から事務局に寄せられた意見について紹介しました。「板橋第九小が、いつどの学校と統合するのかが分らないと判断が出来ない」「また、入学式の直前に決まって、急に判断を求められても困ってしまう」「協議会で協議中とのことだが、早く結論を出してほしい」「未就学児の保護者の意見も聞いてほしかった」「子供も不安に感じている」といった意見が事務局に寄せられています。

◎これまでの協議について振り返りをしました。協議会が設置されてから、当初は、児童数の推計、学校間の距離や就学状況、校地面積など、様々な事柄に関する資料を示して、地域の状況に関しての情報を共有して、共通の認識を持って協議を進めてきました。その後、議論を深めるために、これまでの意見を反映した事務局案を提示し、意見交換を行って集約していく作業を繰り返し、前回、方向性が確認されました。今後は、「統合校」「統合時期に関する議論」「子ども達や保護者の交流事業」について意見交換を重ねて、最終的には、協議会での意見を「意見書」という形で、年度内にまとめていきたいと思えます。

◎事務局に問い合わせが多い案件として、「統合校と通学校」のことがあります。「統合校と通学校」については、「統合にあたっての留意事項」の 3 番に、「統合の際には、通学している児童の希望を尊重し、統合校以外も含め、原則隣接した学校に通学できるように配慮する」とあります。原則、統合校に通学していただきますが、事情があつて隣接する他の学校を希望する場合は、ご家庭の希望を尊重したいという内容です。「統合校にしか通えないのでは？」といったお問い合わせをいただきますので、確認させていただきました。

2.統合年度・統合校を検討するにあたっての留意事項など

(1) 過去の学校統合からの傾向

◎学校の統合が決まると、新 1 年生の人数が減少する。◎統合年度が 1 年後となると、在校生が統合年度前から他校へ転校する。（クラス替えのタイミングである 3 年生・5 年生の進級時など）◎在校生が他校へ転校した結果、複式学級が発生する可能性がある。

(2) 統合年度から考える留意事項

①平成 28 年度末（平成 29 年 3 月）の場合

◎統合年度が早いと、学校としての活力（児童数、教員体制、学校行事を行う際の組織力）を保ちながらの学校統合となる。◎複式学級の発生リスクが低い。◎期間が短いと、交流事業の内容が限られてしまう。◎統合へ向けた準備（記念誌の作成、閉校式の準備等）の時間が限られてしまう。

②平成 29 年度末（平成 30 年 3 月）の場合

◎交流事業の計画的な実施が可能である。◎人的配置について、より効果的な配慮が可能である。◎「統合へ向けた準備に時間がかけられる」

③平成 30 年度末（平成 31 年 3 月）の場合

◎過小規模化が一層進むことで、複式学級が発生するリスクが、高くなる。◎交流事業の計画的な実施が可能であるが、統合まで 3 年間あるので、実施時期（期間）については検討する必要がある。◎人的配置について、より効果的な配慮が可能である。

(3) 板橋第九小の統合校を検討するにあたっての留意事項等

◎板橋第九小設立における歴史的経緯◎統合校の学校施設の状況（例：校舎建設年、運動場面積、普通教室の設置可能数など）◎地域の状況（地域との交流など）※地域の状況（町会・自治会、青少年健全育成地区委員会の区域）に合わせ、統合校以外に通学区域を設定することで解決する事も可能です。

◎児童・PTA・保護者の交流、学校間の距離（通学距離）

3.意見交換

委員：一番大事なことは、子どもの立場となって考えることです。児童数によって子ども達の教育環境に差が生じてはいけないと思います。将来を担う子ども達に負担をかけるようなことは絶対に避けなければなりません。これ以上、協議を重ねていっても中々まとまっていけない部分もあるので、事務局が協議内容をまとめていく必要があると思います。大切な事は、5年後10年後に評価されることだと思います。

委員：入学予定校変更希望制を廃止等しないのであれば、板橋第九小が統合する事は、残念ですがしかたないと感じます。各委員は、それぞれの立場で意見しますので、まとめることは容易ではなく、基本的な考え方が決まったのであれば、教育委員会の方でしっかり考えてまとめてほしいと思います。子ども達は順応性があるので、どこの学校に行っても心配ないと思います。

委員：板橋第九小の子ども達に板橋第一小に来ていただきたいと思います。板橋第三小の学校統合の際は、保護者同士の交流を深めるためにPTA役員同士を半数出すといった工夫をしておりました。そういった保護者同士の交流を深める意味でも統合年度は平成29年度末が良いのではないかと思います。

委員：平成28年度の新一年生の人数について報告がありましたが、例年とあまり人数に差がなかったので、今後も維持していくのではないのでしょうか。町会の中でも集合住宅が増え、登校班の集合場所での子ども数も増えております。先ほど、入学予定校変更希望制の手続きの期限が1月29日との話がありましたので、1月中に最終的な案を決めていければと思います。

委員：板橋第九小の新1年生の人数が十数名と報告がありましたが、これだけ統廃合の話題がある中で、十数名といった方々が板橋第九小学校を希望されているのは、保護者の感心があるからではないかと思えます。今後、氷川町の都営住宅の建て替えが行われるほか、隣にある郵政公社も将来は大型集合住宅が建設されるかもしれません。そういったことを踏まえると、ある程度暫定的な期間の中で、何名以上といった基準を設けて計画の中で考えていくべきだと思います。

委員：前回の協議会后に、板橋第九小の保護者の方々に対して報告会を実施しました。参加した保護者の方々から、「板橋第九小の保護者の意向が伝わっていない」「統合に納得していない」「こんなにメリットがある板橋第九小を閉校する必要はない」といった厳しい意見をいただきました。他にも「統合するなら低学年レベルで統合準備会を設置して話し合いを行いたい」といった前向きな意見をいただきました。統合するなら子ども達がバラバラにならない様に同じ時期に同じ学校に通っていただきたいと思います。板橋区が魅力ある学校づくりとするならば、小規模校が既存校に統合するのではなく、2校が意見を出し合い新しい学校を作ることの方が今後のモデルケースになると思います。

委員：統合時期は2年以上かけた方が、交流事業がしっかりできるので良いと思います。板橋第九小と中根橋小は、同じ保育園・幼稚園の子ども達も多く、中根橋小であれば、板橋第九小に入学後、数年先の統合後にまた一緒になることができるので、板橋第九小の入学者が減少するリスクが少ないと思います。

- 委員：板橋第九小の存続を望みます。この協議会があるにも関わらず、十数名の方々が板橋第九小に来てくれます。この協議会がなければもっと多かったと思います。先ほど、板橋第一小の改築時に併せて統合の話がすれば良かったのではないかと話がありましたが、私も、それであれば納得したと思います。板橋第九小の校舎は現在 47 年です。3 年後の 50 年を迎える時に再度このような協議会を立ち上げて検討をしていただければと思います。
- 委員：板橋第九小の児童が少ないので、2 校 3 校と別れていくことは、私としては、不本意です。中根橋小との統合が良いかと思っておりましたが、学校の大きさ等を考えると板橋第一小の方が良いかと思います。通学距離に関しても問題ないと思います。ただ、仲町については、距離があるので配慮をしてください。
- 委員：板橋第九小の存続が難しいのであれば、板橋第一小が統合校となるよりも同じ栄町である中根橋小の方が地域的な結びつきも強く、これまでの実施してきた行事も継続的に実施していけるとと思います。教育委員会が平成 26 年 2 月に策定した A 校と B 校を統合・改築のうえ新校を作る当初の計画は、理にかなっていると思いました。時期ですが、平成 29 年度末が、一番リスクが低いと思います。通常、4 年生から 5 年生の進級時にクラス替えがありますので、板橋第九小の現在の 2 年生（30 人）が 5 年生のタイミングとなることもその理由です。
- 委員：学校の建設年から考えるともう少し待っても良いのではないのでしょうか。近年、大山小学校が閉校しましたが、跡地に集合住宅ができるとの噂もあります。そうすると周辺校も人数が増えてしまうのではないのでしょうか。3 年から 5 年ぐらいは様子をみた方が良いかと思います。このような協議会が設置されている中、十数人の方が板橋第九小を選択していることはメリットがあるからだと思います。最後は、事務局が決断しなくてはならないとは思いますが、もう少し待ってみてはどうかと思います。
- 委員：板橋第一小には、教室にも余裕があると思いますので、板橋第一小に来ていただければと思います。統合年度は、学校の交流や P T A 間の交流も大切だと思いますので、平成 29 年度末に閉校することが良いかと思います。先ほど、新 1 年生の保護者の方から相談が多いとのことですが、私と同じ立場であったら、将来統合される学校だとすると、早く結論を出してほしいと思うと思います。もう残された時間も少ないので、できるだけ早く何年度にどの学校と統合するのかハッキリ決めた方が良いかと思います。
- 委員：今後は、具体的な事を出していかなければならないと思います。どのような統合をしていくか、具体的な中身を決めていく事が大切だと思います。1 月 29 日がリミットだと考えて、その中で具体的なことを考えていくことが大切だと思います。
- 委員：統合先は、運動場面積のことを考えると中根橋小と統合する事は現実的ではないと思います。直ぐ近くに改築を終えたばかりで教室にも余裕がある板橋第一小があるので、統合校としては板橋第一小ではないかと思います。仮に中根橋小と統合した場合、改築するとの話になりますが、中根橋小よりも古い学校が多くあること、多額の税金を使用する事を考えると、一区民としては納得できないと思います。出来れば全員同じ学校に行ってほしいとの話もありましたが、兄弟関係や住んでいる場所によって、行きたい学校も変わってくると思います。
- 委員：お互いの学校の歴史・校風をどのように受け継いでいくか考えていく必要があります。統合年度ですが平成 29 年度末が良いのではないかと思います。今後は、児童はもとより、保護者の意識を併せていくことが大切だと思います。また、今後協議をまとめていくためには、皆さんの意見をまとめた事務局案を作り、その事務局案について意見を出し合った方が、良いかと思います。
- 委員：運動場面積のことを考えると中根橋小ではなく、板橋第一小の方が適しているのではないかと思います。中根橋小と統合して新しい学校を作るとの話もありましたが、中根橋小よりも古い学校も多いので、そういった学校を飛び越えて中根橋小の改築をする必要はないと思います。以前、大事なことは建物ではなく、友達との交流が大切との話がありましたが、私もそう感じました。板橋第九小の保護者の方々に対して、丁寧な説明をして、統合校以外の学校に対する希望が無いかどうか、保護者の意向をよく確認していただき、新一年生の保護者や子ども達の不安を解消していただければと思います。

委員：統合年度は、平成 29 年度末が準備期間もあり一番良いかと思ひます。統合先は、中根橋小と統合すると過大規模化してしまうので、板橋第一小が良いかと思ひます。改築についてですが、中根橋小よりも古い学校が改築していない中、中根橋小を改築する事は税金の使われ方として疑問に思ひます。税金を新しい学校建築の経費に使うのではなく、教員の研修や増員など教育の資質向上のために使つていただきたいと思ひます。統合校は板橋第一小と話しましたが、中根橋小を希望する子ども達がいてくれれば、大切に接していきたいと思ひます。

委員：統合年度は、平成 29 年度末が良いかと思ひます。統合校は、教室数にも余裕がある板橋第一小が良いのではないかと思ひます。中根橋小では現在余裕教室は他の用途で使用しており、子ども達の教育環境が低下してしまう可能性もあります。大人の都合で考えるのではなく、子どもでも理解できる話をこの協議会の中でしていければと思ひます。

委員：閉校に向けて、店じまいをする店が、店じまいをするためのイベントにしない様にしていきたいと思ひます。最後まで子ども達を育てて次につなげていきたいと思ひます。小規模校ということで、自信が無い、集団としての学びが十分ではないと言われていますが、そういうことが無いように、板橋第九小の良さが更に高まる様な交流事業を実施していきたいと思ひます。交流事業を通して板橋第九小の良さが活かされるようにしていきたいと思ひます。そのためにはそれなりの時間が必要だと思ひますが、毎年児童が減る様なことが無いようにしていきたいと思ひます。

委員：統合年度ですが、PTAや、交流事業を計画的にしっかりと実施していくことを考えると平成 29 年度末が良いかと思ひます。統合校については、この協議会での決定に従つていきたいと思ひますが、子ども達の学びを大切にしていきたいと思ひます。交流事業についてですが、統合準備会で検討するとのことですが、計画的にしっかりと実施していくことが大切だと思ひます

委員：私事ですが、子どもが 5 年生の時に、他区に転校しました。転校後は、住む場所、友達、教科書も違い、しばらく負担がかかっているようでした。今回、学校が統合することで、学校は変わるかもしれませんが、今回の 3 校は、同じ地域であり、教科書も一緒です。友達であっても、保育園時代に一緒だった、サッカーチームが一緒、同じ学習塾といった感じで、親戚みたいなものだと思ひます。ですから、中根橋小、板橋第一小どちらに行つてもスムーズに溶け込めるのではないかと思ひます

委員：事務局次長です。板橋第九小関係の委員から板橋第九小を存続したいとの意見をいただきましたが、今までの議論を踏まえて進めていくべきとの意見もいただきました。これまでの意見を踏まえて議論をまとめていくことが大切であるという事は十分理解していますが、統合形式や統合を決めることについては、将来、特定の個人の発言によって決まると地域に遺恨を残す可能性もあります。については、統合時期はある程度方向性が出てきたと考えておりますが、統合校については、事務局の方で一度持ち帰り、教育委員会の中で教育委員の方々から意見をもらい、教育委員会の責任の中で、正式な成案として協議会の中で示していくべきではないかと思ひております。

会長：本日、全員から意見をいただくことが出来ました。この協議会も残り 4 回となり、本日も新一年生のことを考えると来年 1 月までにはある程度まとめていきたいとの話もありました。つきましては、次回協議会に向けて、事務局案を作成するように指示を出しますので、次回協議会では、その事務局案に基づいて協議を重ねていきたいと思ひます。保護者・地域の方々や学校の教職員の方々がお互いを出し合つて、来年 3 月のゴールに向けてより良い案をまとめていきたいと思ひます。

今後の予定

・第 11 回 平成 27 年 12 月 21 日（月）午後 6 時 00 分から午後 7 時 30 分まで

・第 12 回 平成 28 年 1 月 25 日（月）午後 6 時 00 分から午後 7 時 30 分まで

※何れも会場は、板橋第一小いちょうホール ※月に 1 回程度開催する予定です。

※協議会の会則・協議会ニュース、次回の日程等は、区ホームページからご覧いただけます。また、ご意見やご要望がある方は、下記までお願いいたします。

発行元 板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり課 学校配置調整第二グループ

電話 3579-2090 FAX 3579-4214 E-mail ky-tekisei2@city.itabashi.tokyo.jp

ホームページ http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/067/067580.html